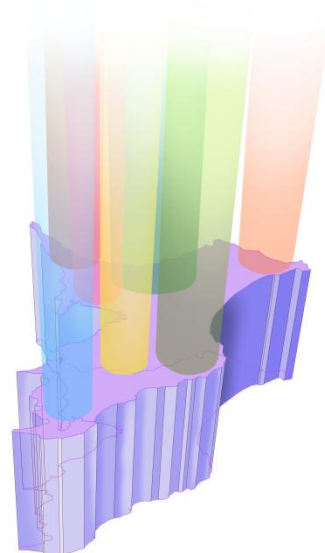




県立学校改革推進プラン

第3次実施プログラム



平成28年3月
千葉県教育委員会

目 次

第3次実施プログラムについて 1

I 魅力ある県立学校づくりの推進 2

1 普通科及び普通系専門学科・コース 2

- (1) 教員基礎コースの設置
- (2) 保育基礎コースの設置
- (3) グローバル化に関する学びの導入
- (4) 国際に関するコースの設置

2 職業系専門学科・コース 5

- (1) 農業に関する学科の学科再構成
- (2) 工業に関する学科の学科再構成
- (3) 商業に関する学科の学科再構成
- (4) 福祉コースの設置

3 総合学科 9

- (1) 総合学科の設置

4 社会のニーズに対応した教育 10

- (1) 単位制の導入
- (2) 防災の学びの導入

II 県立学校の適正規模・適正配置 12

全日制高校の配置（統合） 12

III 県立学校改革推進プランの進捗状況 13

第3次実施プログラムについて

県教育委員会では、平成 24 年度以降の県立学校改革を進めるため、平成 24 年 3 月に新たな計画となる「県立学校改革推進プラン」を策定しました。

本プランは、平成 24 年度を初年度として、10 年後の平成 33 年度を目標年次とし、実施に当たっては、平成 24 年度からの 5 年間（前期）と、平成 29 年度からの 5 年間（後期）に分けて、実施プログラムに基づき推進することとしております。

平成 24 年 3 月に策定した「第 1 次実施プログラム」では、生徒減少の著しい地域への対応や雇用状況・社会構造の変化への対応など、本県県立高校を取り巻く状況や課題等を踏まえ、前期に実施する高校改革のうち、早期に実施すべき具体計画について取りまとめました。

また、平成 26 年 3 月に策定した「第 2 次実施プログラム」では、社会の変化に対応した新たな取組など、前期及び後期に実施すべき具体計画を取りまとめるとともに、県立学校の適正規模・適正配置に関する今後の対応方針を示しました。

このたび、本県県立高校の改革を引き続き推進するため、「第 2 次実施プログラム」に続く新たな具体計画として、今後実施すべき高校改革のうち、検討を終えた内容について、「第 3 次実施プログラム」として取りまとめました。

なお、今後も引き続きプランに基づき、実施すべき高校改革について検討を進め、公表に当たっては、その都度パブリックコメントなどを実施して、幅広く御意見をいただく予定としております。

I 魅力ある県立学校づくりの推進

1 普通科及び普通系専門学科・コース

(1) 教員基礎コースの設置

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
我孫子	30年度	普通科	・教員基礎コースを設置
君津	30年度	普通科	・教員基礎コースを設置

【再編の内容】

- ・教育に関心を持ち、将来教員を目指す生徒が、教員としての基礎的な素養を身に付けるとともに、夢や意欲、職業意識等を育むため、我孫子高校と君津高校に教員基礎コースを設置します。

【教育内容等】

- ・教育に関する学校設定教科・科目を設け、体験を重視した学習や外部講師による講座等を実施します。
- ・近隣の小・中・特別支援学校等との連携による教育体験実習を実施し、教員としての職業意識を育みます。
- ・教員養成系大学や教育機関等との幅広い連携による出前授業や特別講座、大学の講義体験、学生との交流会などを実施し、専門的な学びを通して教員になるための基礎を学びます。
- ・先行して設置した学校（千葉女子高校、安房高校）の実践等で得られた成果を相互に共有し、教育内容の一層の充実を図ります。

(2) 保育基礎コースの設置

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
市川南	31年度	普通科	・保育基礎コースを設置

【再編の内容】

- ・小学校入学前までの乳幼児に対する保育や幼児教育に興味・関心を持ち、保育士や幼稚園教諭を目指す生徒が、その基礎的な素養を身に付けるとともに、夢や意欲、職業意識等を育むため、市川南高校に保育基礎コースを設置します。

【教育内容等】

- ・学校設定教科・科目を新たに設け、保育・幼児教育の制度や学習内容、子どもの発達などについて学ぶとともに、近隣の関係機関と連携し、実習や子育て体験などを行います。
- ・保育・幼児教育系大学や専門機関等の外部講師による出前講座や特別講座を実施し、造形表現や音楽表現などの保育技術を学習します。
- ・キャリア教育の一層の充実を図るため、「産業社会と人間」の導入について検討します。

○学校設定教科・科目

学校が独自に、地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じ、特色ある教育課程の編成のため設定することができる教科・科目です。

○学科、コース、学び

学 科：学科には、普通科、専門学科、総合学科があります。また、専門学科には普通系専門学科と職業系専門学科があります。

コ ー ス：生徒の特性、進路等に応じ、学習計画に計画性、継続性を持たせるため、学校が独自に各教科・科目をあらかじめ配列したものです。

学 び：特色ある教科・科目や体験などの教育活動のことです。

(3) グローバル化に関する学びの導入

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
松 尾	28年度	普通科	・グローバル化に関する学びを導入

【再編の内容】

- ・グローバル化の進展など社会の変化を踏まえ、郷土と国を愛する心を育むとともに、世界を舞台に活躍できるグローバル人材を育成するため、松尾高校にグローバル化に関する学びを導入します。

【教育内容等】

- ・地域の実情や学校、生徒の実態等を踏まえ、その特色を生かしつつ、グローバル化に対応した教育課程や教育内容、指導方法の工夫・改善について研究を行います。
- ・学校、家庭、地域が一体となって、グローバル人材を育成する学習環境を構築します。
- ・外国人講師やICT等を活用して、外国語を使う機会を増やします。
- ・生徒が留学しやすい環境を整えます。
- ・海外高校との留学生交流等、国際交流を推進します。

(4) 国際に関するコースの設置

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
匝 瑳	29年度	普通科 理数科	・普通科に 国際に関するコース を設置 ・英語科は、募集を停止

【再編の内容】

- ・グローバル化など社会の変化に対応するため、豊かな国際感覚を養う国際教育を視野に入れ、匝瑳高校に**国際に関するコース**を設置します(コース名は今後検討します。)
- ・匝瑳高校の英語科は、平成29年度入試から募集を停止します。

【教育内容等】

- ・従来の英語科の学びを継承するとともに、英語圏以外の言語や文化等についても学習します。
- ・短期留学や高大連携による留学生との交流等により、国際的視野を広げ、コミュニケーション能力を高めます。
- ・歴史的に日本とのつながりが深く、今後も一層の交流・連携が重要となる中国や韓国など、近隣アジア諸国の文化等を理解するとともに、英語以外の言語を学習します。

○グローバル化

経済活動や人々の行動が地球的規模、地球的視野で行われるようになることです。

2 職業系専門学科・コース

(1) 農業に関する学科の学科再構成

対象高校	実施年度	備 考
農業に関する 学科設置校	30年度	<ul style="list-style-type: none"> ・農業に関する学科を、次の6学科に再構成 園芸科：基礎から幅広く農業を学ぶ学科 農業科：園芸科の学びに加え動物の飼育等も学ぶ学科 食品科学科：食品の加工・製造・流通等を学ぶ学科 土木造園科：農業土木と造園の知識と技術等を学ぶ学科 畜産科：家畜の飼育の知識と技術等を学ぶ学科 生物工学科：動植物のバイオテクノロジー等を学ぶ学科

【再編の内容】

- ・農業に関する各学科について、中学生や保護者、中学校関係者等にわかりやすい学科体系及び名称とするため、学習内容に基づいて次のとおり学科名の変更など学科再構成を行います。

高校名	現在の学科	→	再構成	高校名	現在の学科	→	再構成
流 山 高 校	園芸科	}	園芸科	大 網 高 校	生産技術科	}	農業科
	生活科学科				農業経済科		
成 田 西 陵 高 校	生産技術科	}	園芸科		食品工業科	→	食品科学科
	生活科学科				生物工学科	(変更なし)	
	環境建設科	→	土木造園科	茂 原 樟 陽 高 校	生産技術科	→	農業科
	生産流通科	→	食品科学科		生産流通科	→	食品科学科
下 総 高 校	生産技術科	→	園芸科	緑地計画科	→	土木造園科	
多 古 高 校	生産流通科	→	園芸科	鶴舞桜が丘高校	食とみどり科	→	園芸科
旭 農 業 高 校	畜産科		(変更なし)	<ul style="list-style-type: none"> ・薬園台高校、清水高校及び上総高校における農業に関する学科については、現行の学科名とします。 			
	生産技術科	}	園芸科				
	生活科学科						
	食品流通科	→	食品科学科				

【教育内容等】

- ・学科の再構成に当たっては、農業に関する学科を設置するすべての学校において、現状の学習内容を継承しつつ、基礎学力の定着に向けた取組や進学への対応など、必要に応じて教育課程の見直しを行います。
- ・各校の特徴を生かした農業教育を展開するとともに、6次産業化など農業施策と整合した教育活動に積極的に取り組みます。
- ・各校が、農業教育の拠点校である茂原樟陽高校や農業中心校の実践で得られた成果を共有するとともに、農業高校を支援する組織等の協力を得て、積極的に関係機関との連携による教育活動を実施し、県全体の農業教育の底上げを図ります。
- ・地域や学校の実態を踏まえ、魅力ある学校づくりを推進します。

(2) 工業に関する学科の学科再構成

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
下 総	30年度	自動車科 園芸科 情報処理科	<ul style="list-style-type: none"> ・航空車両整備科を自動車科に再構成 ・生産技術科を園芸科に再構成 (農業に関する学科の学科再構成を参照) ・情報ビジネス科を情報処理科に再構成 (商業に関する学科の学科再構成を参照)

【再編の内容】

- ・学科名を学科の学習内容を表す名称に改め、学科の目標を理解した目的意識の高い生徒が積極的に志願できる環境を整備するため、**下総高校**の航空車両整備科の学科名を**自動車科**に変更します。

【教育内容等】

- ・学科名変更後も、現状の学習内容を継承します。
- ・3級自動車整備士国家資格の取得を目指します。

○拠点校

専門学科における先進的な取組を推進し、関係校へ情報提供を行うなど、県全体の専門教育のレベルアップを図る学校です。

茂原樟陽高校：農業教育の拠点校

千葉工業高校：工業教育の拠点校

千葉商業高校：商業教育の拠点校

松戸向陽高校：福祉教育の拠点校

○中心校

農業教育においては、拠点校の他に、各専門分野の中心校を指定し、各校の特徴を生かした教育を展開します。

茂原樟陽高校：土木造園・流通の中心校

成田西陵高校：園芸の中心校

旭農業高校：畜産・作物の中心校

大網高校：食品・生物工学の中心校

(3) 商業に関する学科の学科再構成

対象高校	実施年度	備 考
商業に関する学科設置校	30年度	<ul style="list-style-type: none"> ・商業に関する学科を、次の2学科に再構成 <p style="text-align: center;">商 業 科：マーケティング・ビジネス経済・会計等を幅広く学ぶ学科</p> <p style="text-align: center;">情報処理科：ビジネス情報を中心に学ぶ学科</p>

【再編の内容】

- ・商業に関する各学科について、中学生や保護者、中学校関係者等にわかりやすい名称とするため、学習内容に基づいて次のとおり学科名の変更を行います。

高校名	現在の学科	→	再構成
流 山 高 校	会計科	→	商業科
	情報処理科		(変更なし)
千葉商業高校	商業科		(変更なし)
	情報システム科	→	情報処理科
成田西陵高校	情報科学科	→	情報処理科
下 総 高 校	情報ビジネス科	→	情報処理科
君津商業高校	商業科		(変更なし)
	情報管理科	→	情報処理科

- ・銚子商業高校、東金商業高校、一宮商業高校、館山総合高校及び定時制の課程における商業に関する学科については、現行の学科名とします。
- ・鶴舞桜が丘高校の総合ビジネス科については、別項目の「全日制高校の配置（統合）」を踏まえ、現行の学科名とします。

【教育内容等】

- ・学科名変更後も、現状の学習内容を継承します。
- ・必要に応じて教育課程の見直しを行います。
- ・本県商業教育の拠点校である千葉商業高校を中心として、商業に関する学科設置校における特色ある取組や先進的な取組等について各校が情報を共有するなど、県全体の商業教育の充実を図ります。

(4) 福祉コースの設置

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
我孫子東	31年度	普通科	・福祉コースを設置

【再編の内容】

- ・地域や県全体の福祉教育の充実を図るため、地域バランス等を考慮し、我孫子東高校に福祉コースを設置します。

【教育内容等】

- ・主として、高齢者の介護に必要な専門知識や技術を習得するとともに、介護従事者としての心構えや配慮、マナーを学習し、将来福祉分野で活躍できる人材を育成します。
- ・近隣に位置する福祉施設や、福祉系大学及び学部との連携により、充実した福祉教育の展開を図ります。
- ・介護従事者等の人材育成及び職業教育の一層の充実を図る観点から、福祉に関する資格取得を目指します。
- ・既に福祉教育に取り組んでいる学校の実践等で得られた成果を相互に共有し、教育内容の一層の充実を図ります。

○総合学科

普通科目と専門科目を幅広く開設し、生徒自らが興味・関心や進路希望に応じて、主体的に選択しながら学習できる単位制の学科です。

○系列

総合学科における選択科目群のことで、ある程度のとまりのある学習・科目履修ができるよう関連科目をまとめたものです。

○科目「産業社会と人間」

総合学科の1年次にすべての生徒が学習する科目で、主に次の2点を学習します。

- ・生徒の主体的な進路選択能力を育成するための学習
- ・科目選択を考えるための学習

3 総合学科

(1) 総合学科の設置

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
幕張総合	31年度	総合学科 看護科	・普通科を改編し総合学科を設置

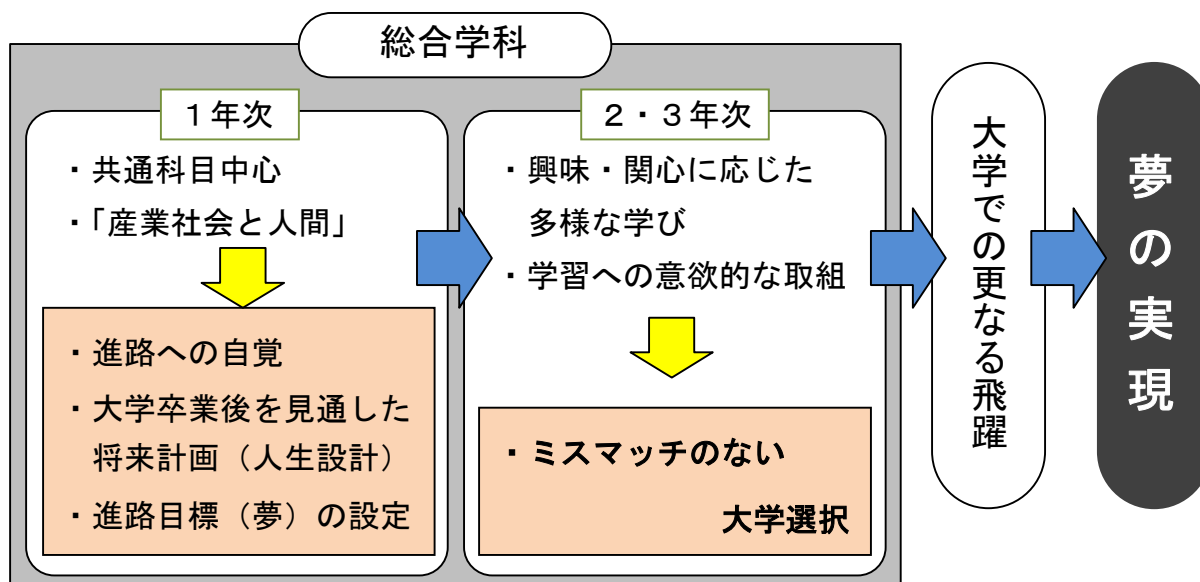
【再編の内容】

- ・生徒の多様な進学希望に対応するとともに、大学卒業後の就業までを見通したキャリア意識の高い人材を育成するため、幕張総合高校の普通科を改編し、進学を重視した総合学科を設置します。

【教育内容等】

- ・「産業社会と人間」や総合的な学習の時間を活用し、1年次より、将来の職業選択に応じた大学等への進路選択が円滑に行われるよう、計画的なキャリア教育を実施します。
- ・「産業社会と人間」等におけるキャリア教育の実践については、積極的に他校へ情報を発信します。
- ・生徒の学習ニーズに応じた系列を設置します。具体的な系列については、生徒の学習ニーズを踏まえ、設置校の職員で構成する準備委員会で検討します。
- ・現在設置されている多彩な選択科目や2学期制など、単位制の特長を生かします。
- ・大学等と積極的に連携し、進学に向けた実力養成講座や課外補習等を実施します。

《参 考》進学を重視した総合学科のイメージ



4 社会のニーズに対応した教育

(1) 単位制の導入

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
安 房	30年度	普通科	・単位制を導入

【再編の内容】

- ・一人一人の生徒の興味・関心などに対応した学習を進め、個性の伸長を図り、幅広い進路選択を可能とするため、**安房高校に単位制を導入**します。

【教育内容等】

- ・多様な選択科目を設け、生徒の適性・能力や進路希望等に応じた教育課程を編成します。
- ・2学期制を活用した学期ごとの単位認定や、長期休業中における短期集中講座の開設などを検討します。
- ・ガイダンス機能を強化し、生徒が自ら目標を設定し、実現できるような取組を行います。
- ・高大連携による大学での学修等、学校外における学修の単位認定制度などの活用を検討します。

○単位制

学年の区分がなく、必修科目に加えて、生徒が自らの興味・関心や進路希望等に応じて履修する科目を選択でき、修得単位数の合計が、卒業に必要な単位数を満たせば卒業できるシステムです。

(2) 防災の学びの導入

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
市原八幡	31年度	普通科	・防災の学びを導入

【再編の内容】

- ・東日本大震災におけるコンビナート火災などの教訓を生かし、自然環境や社会環境との関わりを視野に入れた防災教育を推進するため、市原八幡高校に**防災の学び**を導入します。
- ・災害発生時における医療に関する知識や技術の習得など幅広い学びを導入します。

【教育内容等】

- ・1年次に、防災について学ぶ学校設定教科・科目を生徒全員が履修し、防災に関する素養を身に付けます。
- ・2年次以降、地理歴史・理科・家庭・保健体育など学習指導要領に防災関連記述のある科目の探究的な学習を行います。また、自然環境との関わりや災害について学ぶ学校設定科目を設けます。
- ・隣接地に建設される予定の千葉県消防学校・防災研修センターと連携し、災害時の医療体制の仕組みや人命救助等に関する実践的な技術等を学習します。
- ・大学・研究機関や地元企業、地元自治体（防災部局や消防本部）と連携し、外部講師による講演・講義や校外学習などの実践的・体験的な授業を展開します。
- ・近隣の小中学校と各種防災教育で連携し、実践的・体験的な教育活動を展開します。

Ⅱ 県立学校の適正規模・適正配置

全日制高校の配置（統合）

対象高校	使用校舎	実施年度	設置学科	備 考
市 原 鶴舞桜が丘	市 原	31年度	普通科 園芸科	・鶴舞桜が丘高校のグリーン キャンパスは実習場として使用 ・校名については今後検討

【これまでの経緯】

- ・市原地区は、適正規模の下限である1学年4学級規模以下の学校が県立高校6校のうち5校存在します。そのうちの2校については1学年3学級規模で隣接しているなど、喫緊の課題を抱えています。
- ・平成24年度に地域協議会を開催し、地域関係者から様々な御意見を伺いました。
- ・第2次実施プログラムを踏まえ、平成26年度には、適正規模・適正配置の観点を踏まえつつ、地域の方々にも地域における学校の在り方について主体的に考えていただきながら、引き続き検討を進めてきました。

【再編の内容】

- ・市原高校と鶴舞桜が丘高校を統合し、使用校舎は市原高校とします。
- ・統合校には、両校の学びを継承して普通科及び園芸科、商業に関するコースを設置します（コース名は今後検討します）。また、鶴舞桜が丘高校の福祉コース及び緑地管理コースも引き続き設置します。
- ・農業分野の学習のため、鶴舞桜が丘高校グリーンキャンパスは継続して使用することとし、生徒が移動するためのバスも引き続き使用します。
- ・地域との連携を積極的に推進し、地域の教育力を活用するとともに、引き続き地域に信頼され、必要とされる学校づくりを進めます。

【統合校の目指す姿】

- ・普通科では、生徒の多様な進路希望に対応するため、少人数学習や習熟度別学習等によるきめ細かな教育活動などを実施します。また、商業に関するコースでは、学びを生かし様々な資格取得を目指します。
- ・園芸科では、基礎から幅広く農業を学ぶとともに、緑地管理コースを引き続き設置します。
- ・福祉コースは、両学科で選択可能とし、卒業と同時に介護職員初任者研修修了者資格が取得できるように教育課程を編成します。

「県立学校の適正規模・適正配置（全日制高校・定時制高校の配置）」の今後の対応

中学校卒業者数の将来的な推移や高校の配置バランス、生徒の志願状況など、地域・課程ごとに様々な課題があることから、生徒・保護者のニーズや地域協議会等での御意見等を踏まえるとともに、地域の方々から御意見をいただきながら、統合の実施を含めて引き続き検討してまいります。

Ⅲ 県立学校改革推進プランの進捗状況

I 魅力ある県立学校づくりの推進

形態等	具体計画の方向	実施計画の内容	第1次	第2次	第3次	計
普通科	社会のニーズに対応したコースの設置	教員基礎コースの設置	2校	－	2校	4校
		医療系コースの設置	2校	－	－	2校
		保育基礎コースの設置	－	－	1校	1校
	教育課程や教育内容、指導方法の工夫・改善	グローバル化に関する学びの導入	－	－	1校	1校
英語科	英語科の学科改編	国際に関するコースの設置	1校	－	1校	2校
国際科	国際科で真の国際人の育成	グローバルスクールの設置	－	1校	－	1校
理数科	2校程度に設置	理数に関する学科の設置	1校	1校	－	2校
農業科	農業教育の拠点校設置	拠点校の設置	1校	－	－	1校
	わかりやすい学科名への変更を含めた学科再構成	学科再構成	－	－	8校	8校
工業科	工業教育の拠点校設置	拠点校の設置	1校	－	－	1校
	関係機関等との連携を推進する組織を設置	コンソーシアムの設置	1校	－	－	1校
	進学を視野に入れた教育	理数工学科の設置	1校	－	－	1校
	わかりやすい学科名への変更を含めた学科再構成	学科再構成	－	－	1校	1校
商業科	わかりやすい学科名への変更を含めた学科再構成	学科再構成	－	－	5校	5校
福祉科	福祉教育の拠点校設置	拠点校の設置	1校	－	－	1校
	系列・コースを5校程度に設置	福祉コースの設置	3校	1校	1校	5校

形態等	具体計画の方向	実施計画の内容	第1次	第2次	第3次	計
総合学科	普通科の転換により3～5校程度設置	総合学科の設置	—	1校	1校	2校
単位制高校	進学指導重点校など2校程度に導入	単位制の導入	1校	—	1校	2校
中高一貫教育校	併設型・中等教育学校を2校程度設置	併設型中高一貫教育校の設置	1校	—	—	1校
観光・ 環境・ 防災等	観光について学べる系列やコース、科目等設置	観光の学びの導入	1校	—	—	1校
		観光に関するコースの設置	—	1校	—	1校
	環境について学べる系列やコース、科目等設置	環境に関するコースの設置	2校	—	—	2校
		防災について学べる科目等設置	1校	—	1校	2校
地域連携 アクティヴ スクール	4校程度に設置	地域連携アクティヴ スクールの設置	2校	2校	—	4校

II 県立学校の適正規模・適正配置

形態等	具体計画の方向	実施計画の内容	第1次	第2次	第3次	計
全日制 高校	適正規模の観点から、5～6組程度の統合を見込む	統合	1組 3校	—	1組 2校	2組 5校

※ 第1次は「第1次実施プログラム」、第2次は「第2次実施プログラム」、第3次は「第3次実施プログラム」を表します。

○コミュニティ・スクール（県立学校）の指定状況

コミュニティ・スクールは、保護者や地域住民が、学校運営協議会を通じて、一定の権限と責任を持って学校運営に参画し、より良い教育の実現を目指すという、地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりの仕組みであり、指定状況は以下のとおりです。

平成24年度～：多古高校 長狭高校

平成27年度～：浦安高校

平成28年度～：京葉高校（予定）

県立学校改革推進プラン
第3次実施プログラム

平成28年3月

編集・発行／千葉県教育委員会
(企画管理部県立学校改革推進課)
〒260-8662 千葉市中央区市場町1-1
電話 043-223-4026

